



TOKYO GARIOA FULBRIGHT ALUMNI ASSOCIATION

ガリオア・フルブライト東京同窓会

NEWSLETTER



笑顔で結ぶ日米教育交流

日米フルブライト交流計画50周年記念レセプションは、
天皇・皇后両陛下をお迎えし、また式典・シンポジウムは
皇太子・同妃殿下ご臨席のもと盛大にひらく



ガリオア・フルブライト東京同窓会

〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10

TEL: 03-3221-1841 FAX: 03-3238-0758

E-mail: fulb@fulbright.or.jp

<http://www.fulbright.or.jp>



Japan-U.S. Fulbright Program 50th Anniversary
Reception



Japan-U.S. Fulbright Program 50th Anniversary Ceremony & Symposium



Ceremony & Symposium



賀来委員長ご先導



遠山文科大臣、ハリソン國務次官補、植竹外務副大臣



植竹外務副大臣、クリステンソン臨時代理大使、フルブライト夫人



賀来実行委員長、内古閑日米教育交流振興財団理事長、金子東京同窓会会長



桜井里穂、シェパード事務局長、有田明子、ヤン前事務局長



メアリー・ハムストンご夫妻（グランティアー）

日米フルブライト交流計画50周年記念行事

今年は、1952年に日米フルブライト交流計画が開始されてから50周年にあたる記念すべき年です。このため2年ほど前から、ハワードH. ベーカー駐日米国大使と竹内行夫外務省事務次官を共同会長とする日米フルブライト交流計画50周年記念事業発起人会のもとに、記念事業実行委員会（賀来景英委員長）が設けられ、実行委員の方々、日米教育委員会事務局（サムエルM. シェパード事務局長）および同窓会が一体となって準備を進めてまいりました。

記念事業は先ず、5月8日（水）「日米フルブライト50周年」記念切手の発売で始まりしました。

次いで翌5月9日（木）、午後7時からサントリーホールにおいて、フルブライト音楽祭「もう一つの世界との出会い」が催されました。出演者は同窓生及びその家族の方々の方々です。

ヴァイオリン：久保陽子

チェロ：堤 剛

ピアノ：田崎悦子

ピアノ：広中 孝

ベーカー駐日米国大使ご夫妻はじめ会場いっぱいの聴衆は、一ガーシュイン：三つの前奏曲—にはじまるすばらしい演奏を心ゆくまで楽しみ、惜しみなく盛大な拍手を送りました。

5月25日（土）には午後5時30分から、天皇・皇后両陛下をお迎えして、東京国際フォーラム レセプション・ホールにおいて、50周年記念レセプションが行われました。

日比谷潤子東京同窓会アルムナイ・ミーティングス副会長の司会により、白川哲久日米教育委員会委員長の挨拶に続き、パトリシア・ドустレーシー・ハリソン米国国務省次官補とハリエット・フルブライト夫人が来賓として祝辞を述べられ、竹内行夫外務省事務次官の乾杯のあと歓談に入りました。

両陛下は、和やかに招待者や同窓生のご挨拶をお受けになり、周りには幾重にも人の輪が広がり、両陛下ご退席の後も参加者の歓談は遅くまで続きました。

そして5月26日（日）午前9時30分から、皇太子・同妃殿下ご臨席のもと、東京国際フォーラム Bホールにおいて50周年記念式典・シンポジウムが行われました。

前夜と同じく、日比谷潤子氏の司会により、金子尚志東京同窓会会長の挨拶に続き、皇太子殿下よりお言葉（4頁に掲載）を賜りました。

その後、来賓としてご参列の遠山敦子文部科学大臣とパトリシア・ドустレーシー・ハリソン国務省次官補が祝辞を述べられ、続いてカロラインA. 又野 ヤン フルブライト対外奨学金理事会理事長（日米教育委員会前事務局長）がスピーチをされました。

次いで第3回フルブライト賞授賞式に入り、ハリエット・フルブライト夫人から4人の受賞者に記念品が贈られました。続いて全国の同窓生から寄せられました個人募金の目録が、金子尚志会長から内古閑俊二日米教育交流振興財団理事長に贈呈されました。

この後、皇太子・同妃殿下はステージから客席内に移られ、山崎正和東亜大学学長（劇作家）による基調講演を、大勢の招待者、同窓生、一般の参加者とともに聴講されました。

午後は平野健一郎早稲田大学政治経済学部教授をモデレーター、下記の方々をパネリストとして、パネルディスカッション「21世紀の国際知的交流と日本」が行われました。

キャロル・グラック

コロンビア大学教授

皇太子殿下のおことば

平成14年5月26日(日) (東京国際フォーラム)
日米フルブライト交流計画50周年記念式典にて

日米フルブライト交流計画50周年を記念する式典に皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

フルブライト交流計画は、人と人との交流を通し、相互理解を深めることで平和な世界を築き上げたいという、故J. ウィリアムス・フルブライト米国上院議員の願いから始まりました。第二次世界大戦直後に計画が始まって以来、世界の国々が事業に参加し、26万人を超える同窓生が各国で活躍されていると聞いています。日米両国の間の事業は今年50周年を迎えましたが、この間、6千数百人の日本人を米国に派遣し、約2千人の米国人を我が国に迎えることを通じて、両国間の友好と相互理解の促進に大きく貢献してきました。

若いころの海外への留学は、非常に貴重な経験となります。私にとっても、留学の経験が、その後の人生に極めて有益であったと感じます。帰国した多くの同窓生の方々が、フルブライト交流計画で得た貴重な経験を糧に、我が国社会の発展の過程でそれぞれ活躍されてきたことを誠に喜ばしく思うとともに、その後のフルブライト交流計画を記念募金活動などを通じて支援されてきたことに、心から敬意を表したいと思います。

過去半世紀の間に交通や通信の手段は格段の進歩を遂げましたが、各国の間の人物交流を推し進めていくことは、21世紀に入っても引き続き重要であると思います。フルブライト交流計画がこれからも発展を続けるとともに、日米の人々の間の相互理解が一層深まることを願い、私の挨拶といたします。

孔 魯明 (コン・ノミヨン)

元韓国駐日大使・外務大臣、東国大学教授

猪木武徳 大阪大学大学院経済学研究科教授

岡本行夫 岡本アソシエイツ代表

山本 正 (財)日本国際交流センター理事長

陶芸 藤原 雄

陶芸 結城美栄子

陶芸 バレリ・ジメニ

写真 有田明子

以上5月に行われました各記念行事に続き、秋の記念行事である9月20日～29日のアメリカ再発見旅行、10月28日(月)の記念チャリティ・ゴルフ大会等の模様は次号ニューズレターでご紹介する予定です。

これら基調講演、シンポジウムのほか、専門家による論文等をまとめた50周年記念出版物は本年末に上梓される予定です。

上記の記念レセプション、式典・シンポジウムと並行して、フルブライト美術展「もう一つの世界との出会い」が、5月20日(月)から26日(日)の間、東京国際フォーラム Aギャラリーで開かれ、フルブライターであるつぎの陶芸家、写真家による作品が展示されました。

日米フルブライト交流計画 50周年記念式典挨拶

ガリオア・フルブライト東京同窓会会長
金子尚志



異文化理解の礎築いたこの50年を祝す

本日は、皇太子殿下・同妃殿下をお迎えし、遠山敦子文部科学大臣、PatriciadeStacy Harrison米国・国務省次官補はじめ多くの関係者ご臨席の下に、日米フルブライト交流計画50周年記念式典を、かくも盛大に挙行できますことは、関係者一同慶びに耐えない次第であります。

思えば、フルブライト交流計画の前身は、1949年ガリオア資金による50人の留学生派遣に始まりました。その後1951年サンフランシスコ平和条約締結に伴い、米国フルブライト法による交流計画に移した訳であり、その年1952年が本日の50周年記念式典の原点に当たるわけであります。

それから実に半世紀・50年が経過致しました。この間、日本からのフルブライト留学生として、当初の20年間は年平均・約250名、70年代以降の30年間は年平均・約50名の留学生が日米に派遣されました。通算して前年の20年間で5,000名、それ以降の30年間で1,800名。合計して実に6,800名の日本人留学生が米国の大学・研究機関等に派遣され、勉学・研究に従事したことになります。戦後の荒廃する日本から、学界のみならず、広く官界、金融界、法曹界、産業界、芸術、ジャーナリズム等の広い層から留学生が公募・選考され、米国に渡り、学問を学び、社会を知り、そして友情を体験して帰って参りました。帰国後、これらの方々は日米相互理解の精神を日本に浸透させると共に、日本の戦後復興と日米関係改善強化に大きく貢献されたことは、御高承の通りでございます。一方、米国から日本への留学生は通算約2,000名ですが、1979年に日本政府も半額負担を開始し、現在両国バランスの取れた姿で運営されております。

若い頃に留学機会を頂いた同窓生の感謝の気持ちは、何時の日にか「両国の架け橋」の役目を果

たしたいとの行動に反映され、20年前から5年ごとに同窓生対象の募金活動として展開され、その浄財は企業寄付金等と併せて、米日留学生の追加招聘に当てられて参りました。今年度は、「50周年記念募金」と言うことで、結果として1,651名の同窓生から総計4,000万円を超える浄財を募金賜りました。後程寄贈式がありますが、募金頂いた多くの同窓生他の関係各位に心から感謝申し上げる次第であります。同窓会会員の多くが既に御高齢にも拘わらず、前回を上回る募金を賜ったことは、昔の留学経験の感動を忘れ得ぬ同窓生各位の強い恩返しへの思いの集積であり、深く感動させられる所以でございます。

日米フルブライト交流計画50周年を迎えられたのは、本日フルブライト賞を受賞される方々をはじめ、大勢の先輩各位の積年のご協力の賜であり、ここに深く敬意を表する次第です。またフルブライト交流計画の円滑な実行に尽力されたフルブライト委員会事務局、フルブライト同窓会、フルブライト記念財団の歴代役員各位、並びに50周年記念事業実行委員会の皆様方に、心から御礼を申し上げ、フルブライト精神の一層の発展を念願し、私の挨拶と致します。

募金目録贈呈時の挨拶：

フルブライト交流計画50周年記念募金活動に於いて、全国同窓会会員1,636名の方々から御拠金頂いた、39,662,208円と、米国在住の同窓生15名から寄せられた\$ 4,650、合計すると1,651名、邦貨換算で40,238,343万円の金額になりましたことをご報告申し上げます。これを米国からの留学生招聘の一助に使って頂くべく、御拠金いただいた同窓生各位を代表して、日米教育交流振興財団の内古閣理事長に寄贈申し上げます。